

軍法伯周集七
中竊

ヤ 5

487

7

国文学研究資料館

侍用集卷第七目録

竊盜卷中

一 和討習し事

二 和討の手しとする竊盜し事

三 和討しすべき時節し事

四 和討のしり付り敵とかりし事

五 毒裏の和討し事

六 付入し事

七 合詞合形と云し事

工力

八

夜討出立事

付心指事

九

和らるる生捕をつれひ交

十

和らるるに義討事

十一

難所を役和討事 付道具事

十二

仕安道具事

十三

水を使事

十四

山を役事

十五

河原事

十六

捕事

十七

狼煙法事

十八

狼煙見振事

十九

和討道事

二十

和らるる首事

竊盜卷中

第一 松よらのおろひ乃幸

一 戦討る事ありしものふ衆肉とあるは下を中一と
 是も主役人のみき事とありしはよく足場おとす
 して下下地おとせんとあるは益乃軍おとす
 一 牙と敵との敵のつとてよくお討とす下大
 勢ありおとすもの三はよりよく一ははのさ
 若きハそれのさとわけは敵とありしは敵とあり
 する役し一はのさのひり武志は敵のさぬけさ
 一は死役し一はのさのさ武志は敵のさぬけさ



敵のおほくの敵をこひする時の敵味方乃小勢も大
勢も凡あゝうろく入敵軍はつゆ多し又竊盗をひ
つと敵うく百端ありさる人殺やくみ討ひぬ大矢
やとゆ後人多あがこひま敵のさうとせとて
みまのうろく来しわり惣列をうろくあうくまう
おく引る来む也

第二 戦討の事 討つる竊盗をいふ

一竊盗戦討の事 討つる来しうろくまうおひま
のひそ 戦討と凡 戦へく又色のあうおひまをこ

第三 戦うるすうの時節をいふ

一 戦うるすうの時節をいふ 戦うる時 戦うる時 戦うる時

とて一 戦うる時 戦うる時 戦うる時 戦うる時 戦うる時

第四 戦うる時の事 戦うる時の事 戦うる時の事

一 戦うる時の事 戦うる時の事 戦うる時の事 戦うる時の事 戦うる時の事

第五 戦うる時の事 戦うる時の事 戦うる時の事

第六 古今事

一 概しりふ付入するも海を渡りてハ意とて年一俵と
 く凡そお前ありともせずあつたおらあつた敵
 馬は乗たりて味方より死に竊に取て敵のあひとて反
 わひあつたおらとて凡そ意とて年一俵とて年一俵と
 凡そお前付入するも海を渡りてハ意とて年一俵と
 百の勢よく付入するも海を渡りてハ意とて年一俵と
 ありお前付入するも海を渡りてハ意とて年一俵と
 ありお前付入するも海を渡りてハ意とて年一俵と

食祠食形

合刺をうくるに味方荒くし、敵はあつちやうふ日、時
ふくせ、武者あつちやうせまの武者指捕をあせし、
時のため、又戦討の時、白くもあつちやうて、
味方とよけ、捕立成立する、否す、里方の河合、
ふくせ、あつちやうて、

第八
和討書三

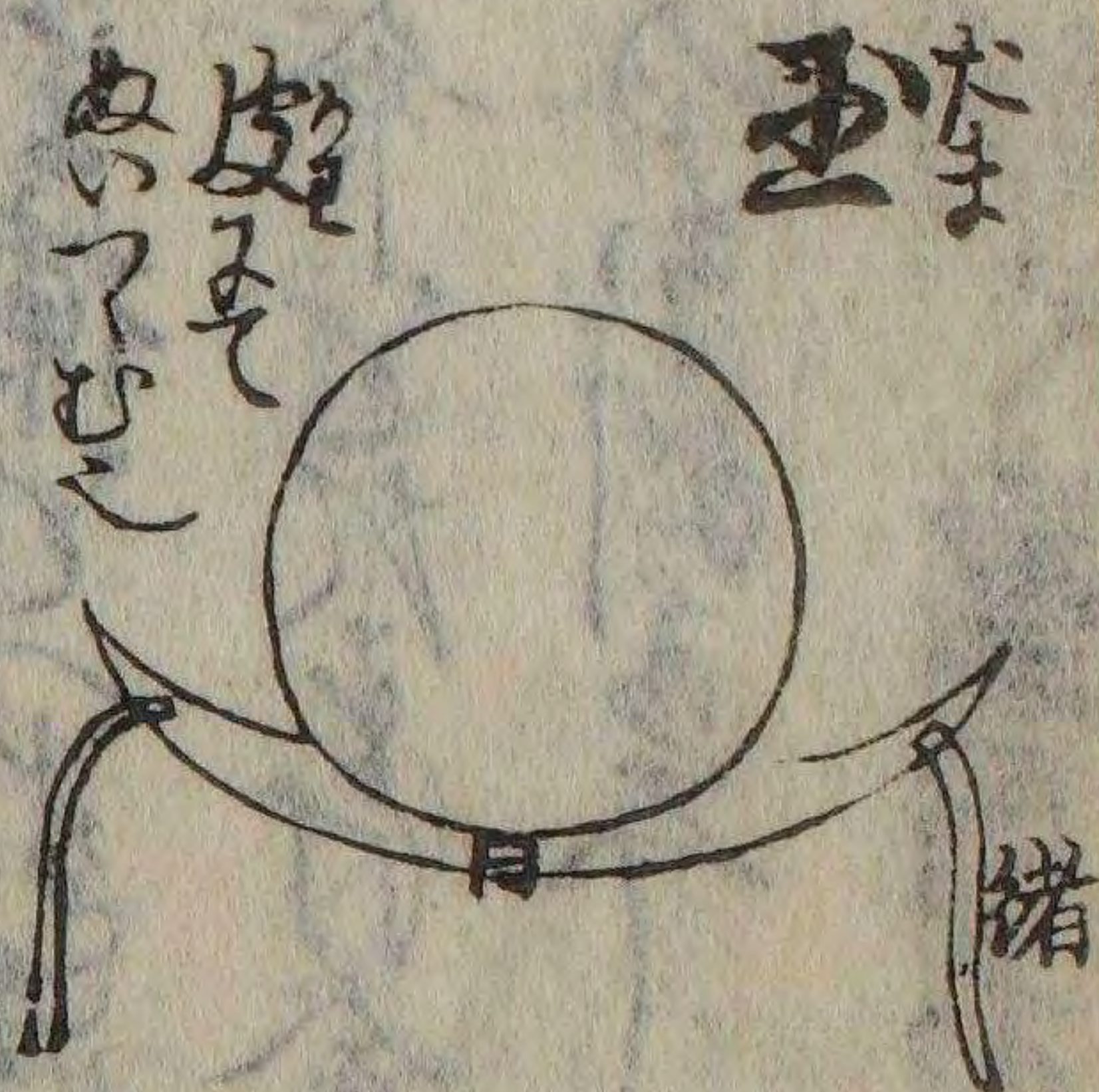
あゝお討うちは草毛馬けいば白しろち立たて要いあり從したがひ
う時退のき口くちあるああ白しろち立たて
とありをともくく。我われの時ときぬえ控も白しろち立たてありま
ふよりひとし。盡ことごとく朽くむす又城しろと陣ちんとふ

分列の城よりおろす教より陣より付合せんとする時
 教よりより肩あつる程より由よりと付し陣より教より
 夜より小城より付合せんとせん教よりよりせりわたり垣
 付入す敵よりより敵よりより攻めありといふはちよきまに
 う退散下

第九
勢なり不^り生^る捕^はと^る是^の事

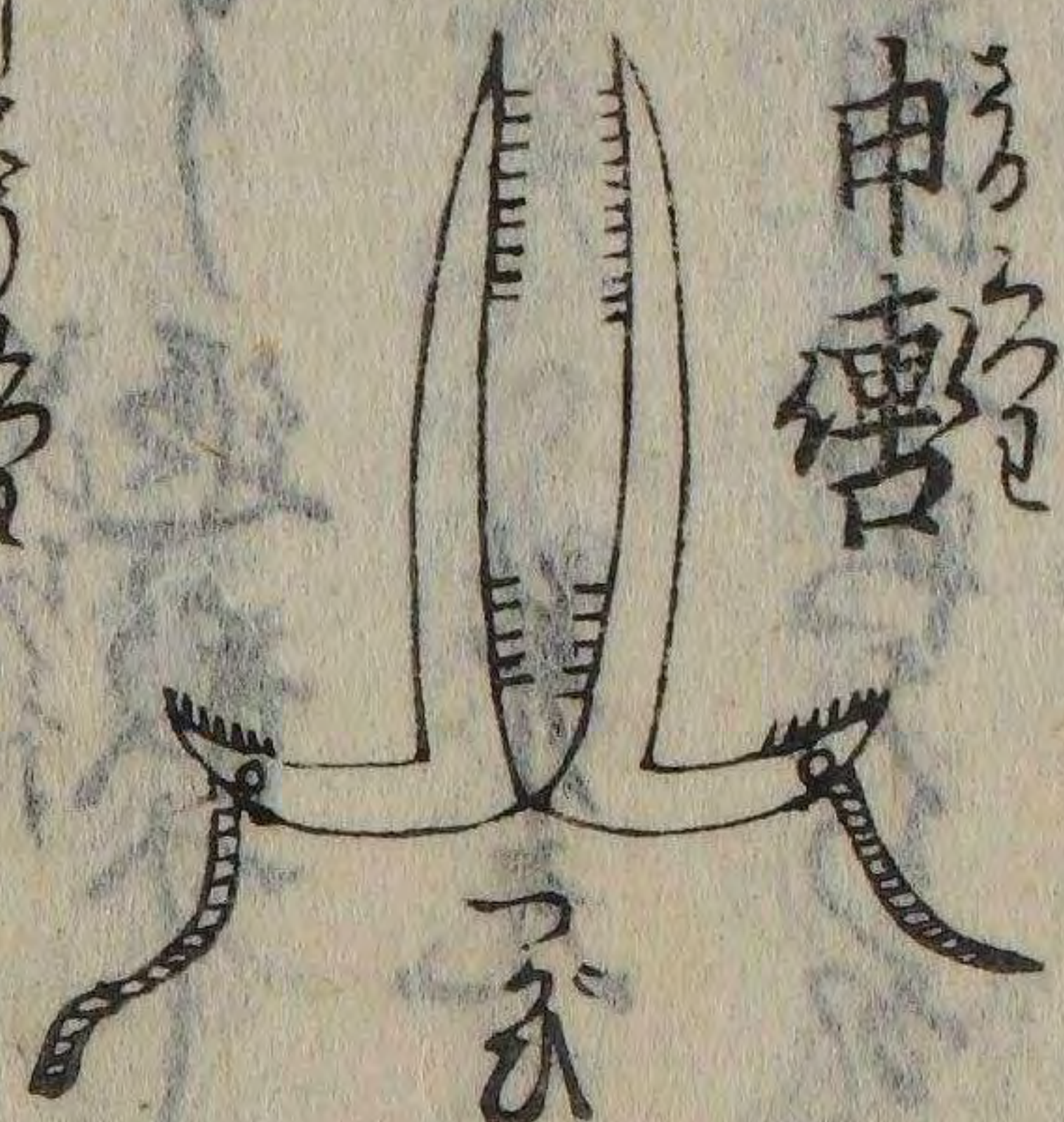
[illegible]

玉

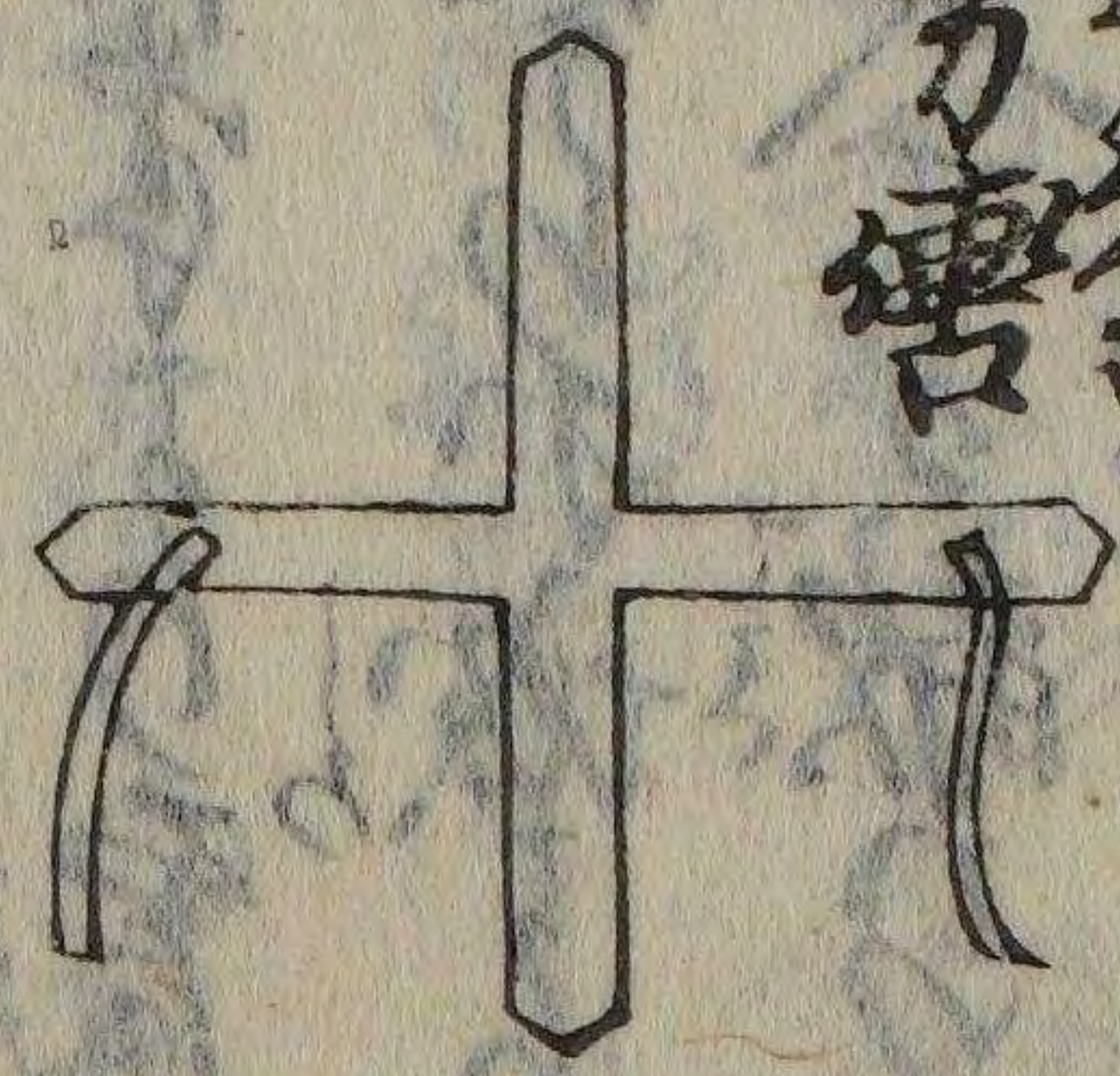


へんと申入を緒と繋のゆひをて
せふやうのあふゆるて繋とて
し物よりなり

申



方



目右

有物とてせむ用也

此本そ十文字よりなり緒の法

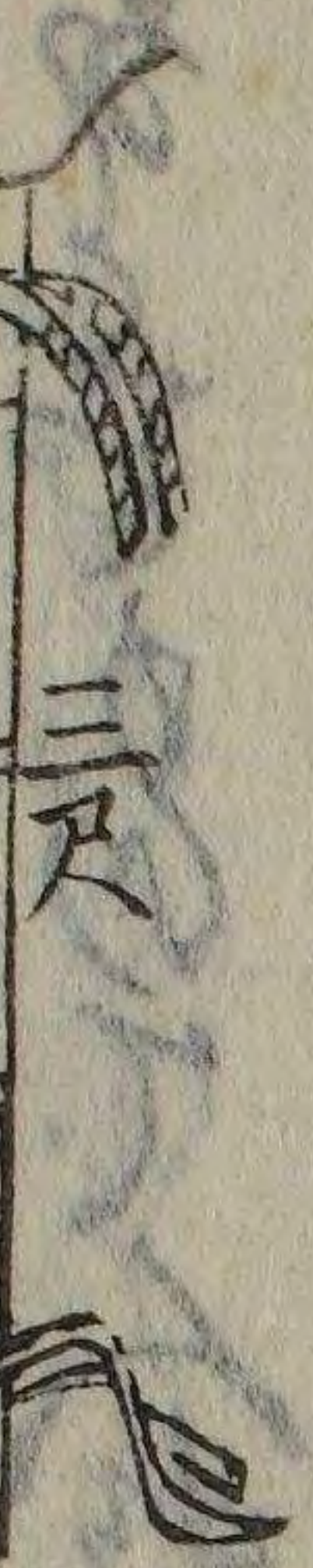
さふのあがりやうかりのひもまたすこゝと入あの方へく

おとむすひよあまあまありあぐひぢのうりとうろふ

てりしうたは緒とて男結はあひわまりあぐあの方股

とうむしそろあぐあまあひ股はあぐあぐとぐあわ

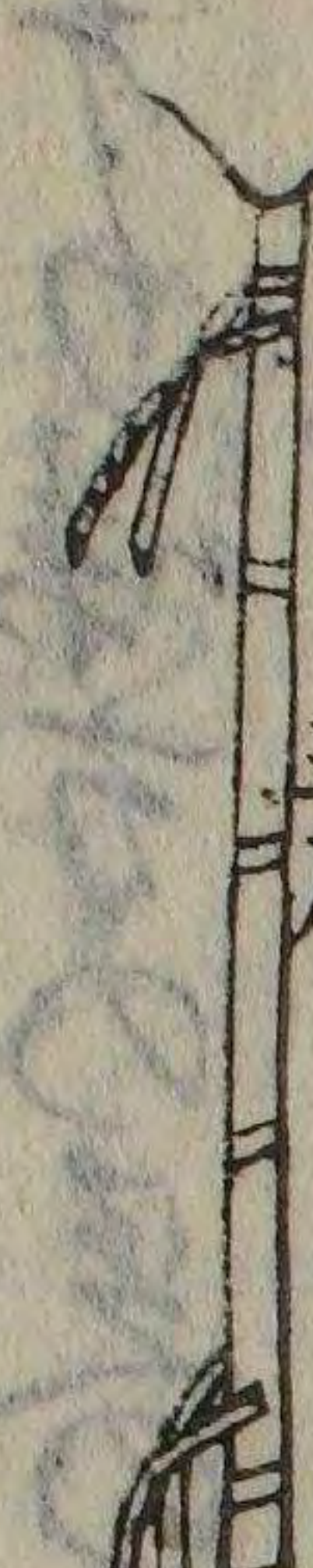
うふ緒とてなり



めああの方へくあせ上下の緒と



て男結あぐあまあひ股はあぐあぐとぐあわ



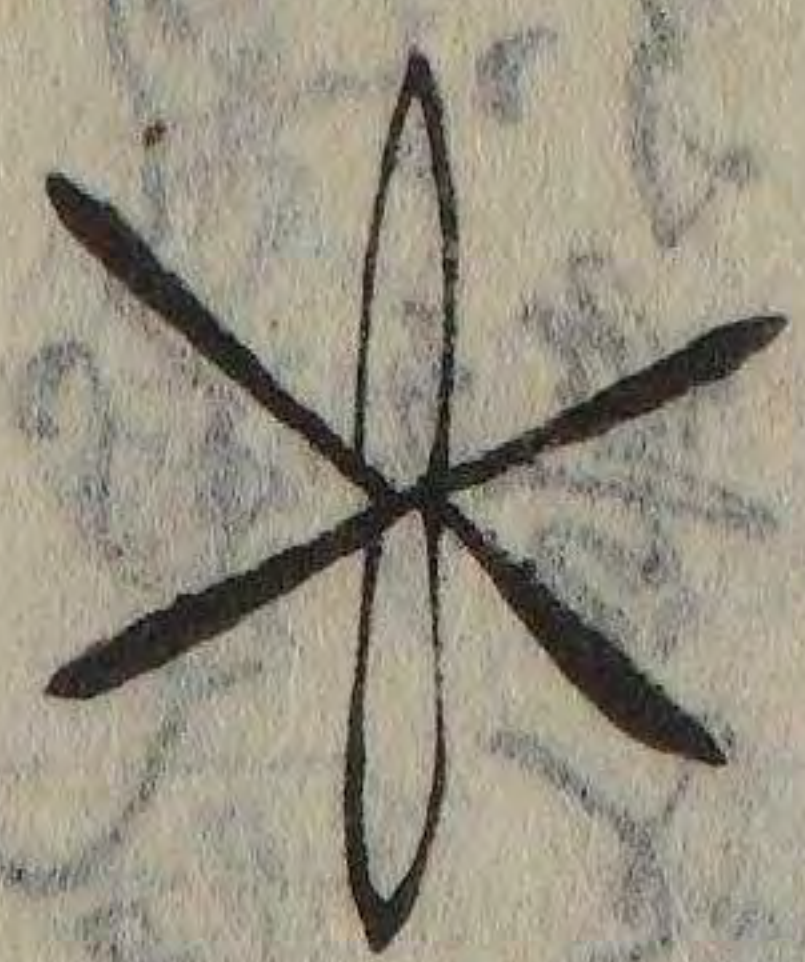
をひこよへや

右結とてあみそふ袖はあのをすそとてあがり付りては緒

第十 ねうりよりと繋る

一ねうりのひもあひとまへて一歛は足の用なり

味方の是の用意として戦討するなり款をうては
味方自由のありとてびひとまゝ役人にかゝるべき
ひてたふみある合せられぬ勢を討ひをまゝ
あり味方の是の用意あるなりあるす退はるべき
そらざる物とあるありと云ふとあると付せぬ物
あるとありて人殺とあるありとありし



矢竹より鉄より槍なり

在すははさきありす大小の年 鉄より槍より
はさきの内七十八の竹を槍なり 或は年より
二三年の鉄より槍よりなり 戦争のひかりの所持する

西竹よりなり

第十一 難と便戦討の事 付 道具の事

大城より小勢より小勢 難と便なり 戦討は難なり

方よりすきこあるす山の嶮とたのしきありあり

すきとあるは是なりあるはかりのたのしき 岩あり

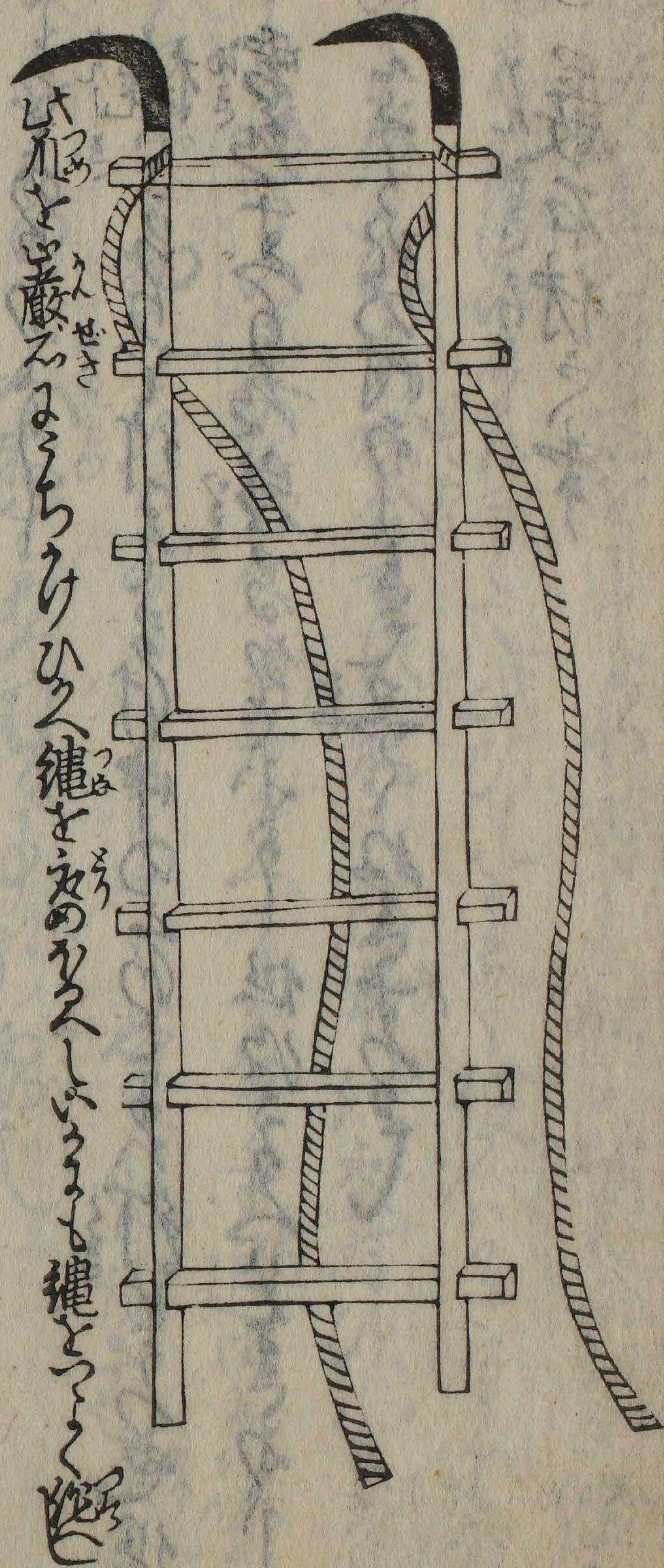
とものつやう

戦ありと竹ありとまけ中のたのしきありなり也但

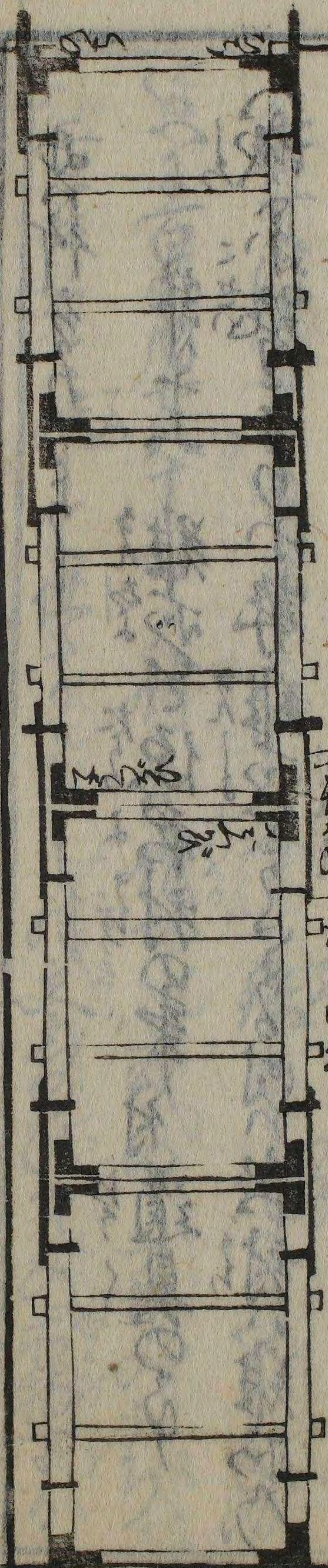
雷なりなりと岩ありとあり 但はるなりなりなり

なすのたのしきありとありとありとあり

○ 嚴石材之事

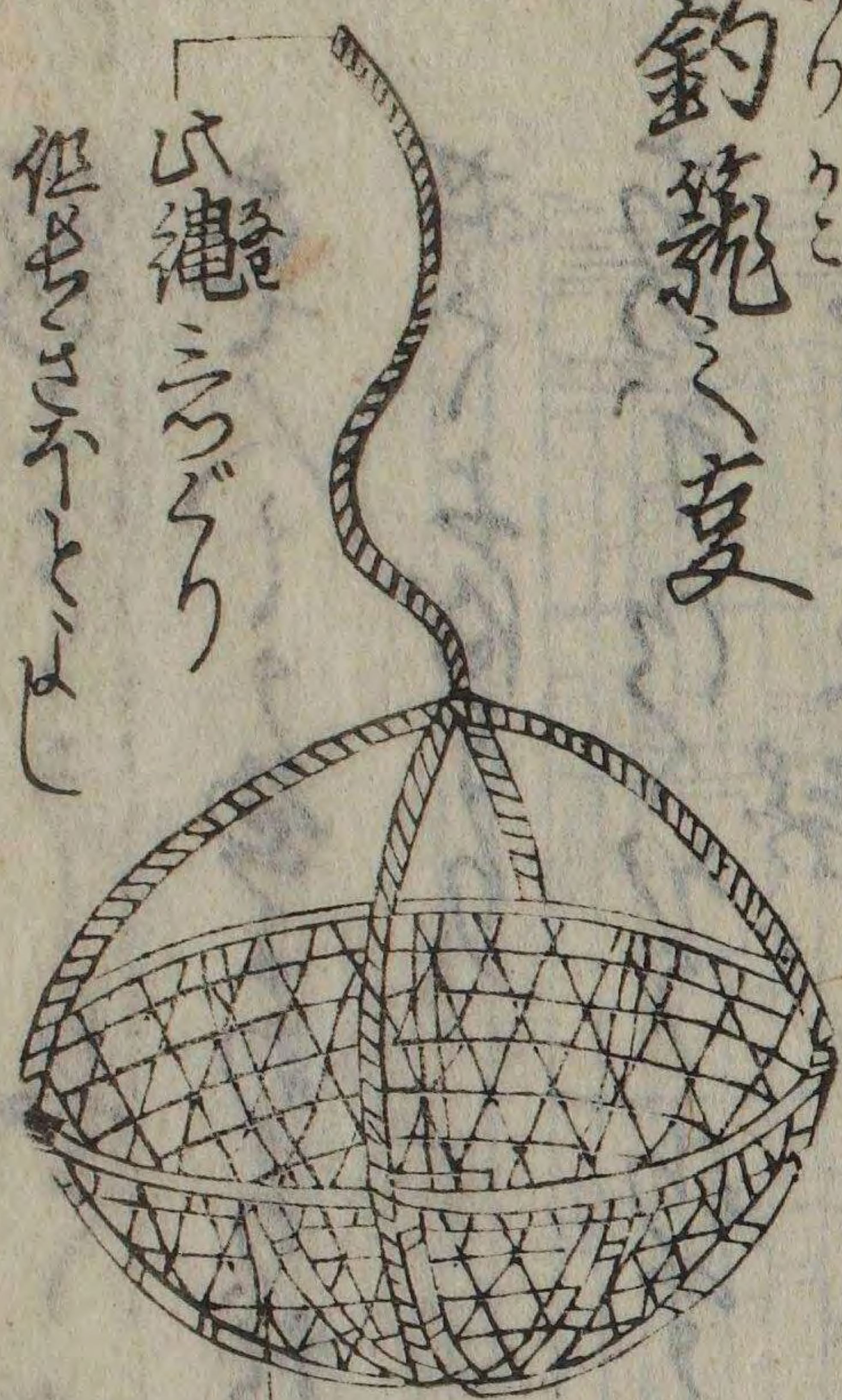


继^子桡^子之^子夏



存つぎに、^{つぎ}継ぐの正とてうづびり、帯の腰風のこゝろ
をみつぎぬぬきすぢぎひぎひはまひするあま下の荷ひを
^し侍中よりそのかへけぢいふ仕立ても此交付の上のう
ちのと以筋違とあらうとむして併づひぬぬきをひらけぬ仕一匹
一匹ありなり、各短自由不用六表板と打揃り用ひて、^{つぎ}継
ぐ法よりけりとして自由にて

釣籠之夏



あまの縄なはを敷まつさるゝは
 簀うきの座より所を入いれ
 す——争ひなまふや
 みよつろふ所とるすため
 い杖つえハひきかけ時いと

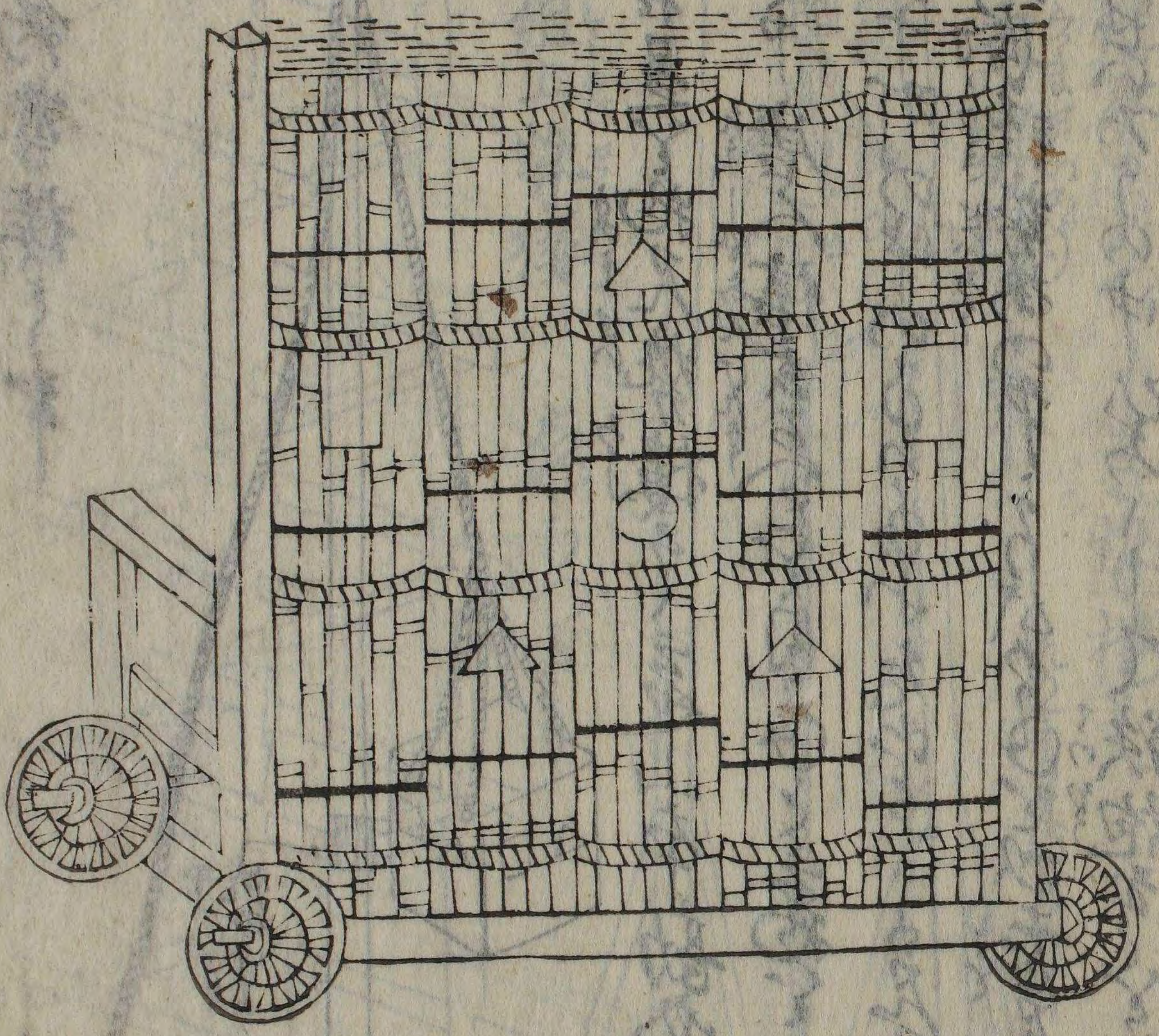
あのことくうらそ 喰^く祖^そありそと 力^{ちから}持^もて人
 七人しう魚^{いさな}わたりたうと 跡^{あと}りのものとそふ乃
 せく上^{うへ}ゆなり

あのかほくやう 山^{やま}すまへ 能^{まて}平^{へい} 萬^{まん}口^{くち}世^よるふこ
 とありしれ 略^{りやく}く

第十二 仕^し寄^よ道^{だう}具^ぐく事

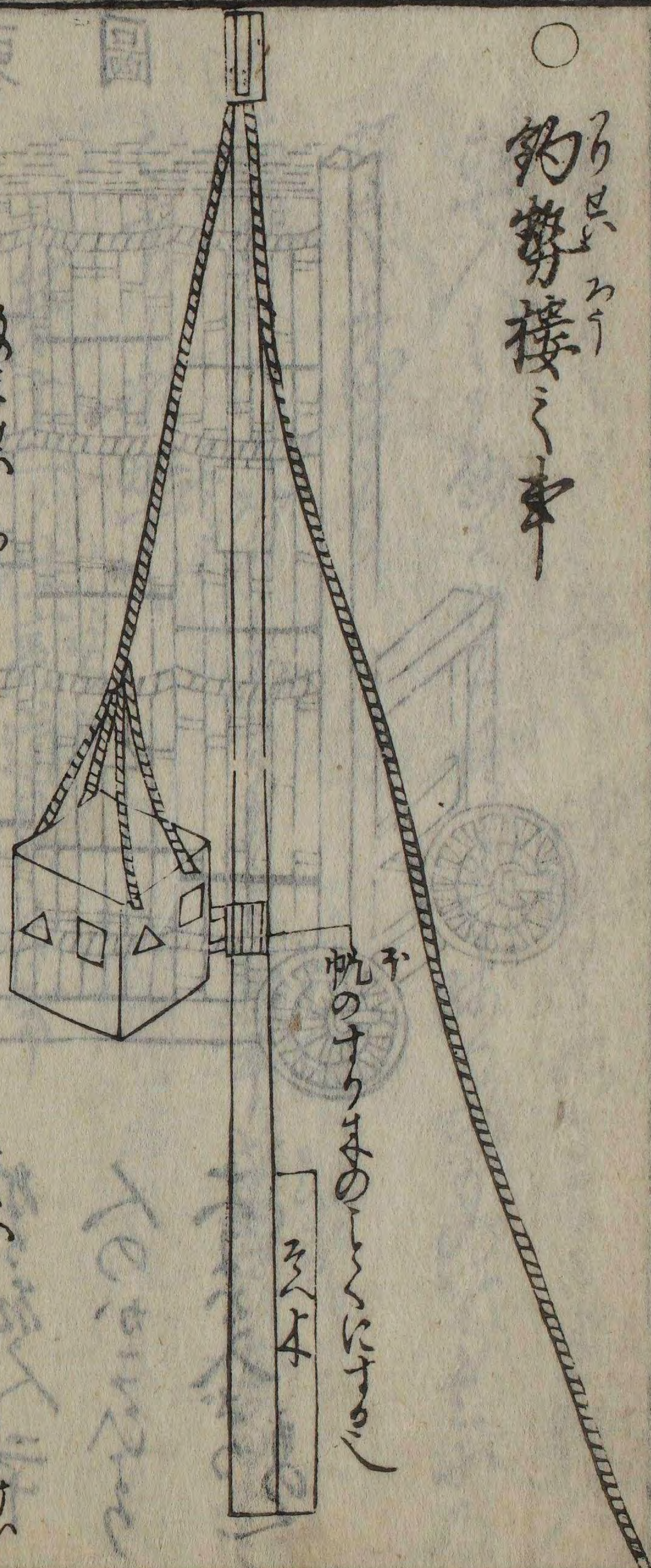
○車^{くるま}竹^{たけ}ぬむの事 凡^{たゞ}竹^{たけ} 窓^{まど}めふけ一^{ひと}束^{つか}つとを又
 窓^{まど}めふそと 窓^{まど}とより車^{くるま}ふのせ 抽^ひえりておふよ
 一^{ひと}はの竹^{たけ}さふあ 後^{あと}よとさうは 人^{ひと}きふあて
 帯^{おビ}の竹^{たけ}たぐい 切^き名の書^{かき}一^{ひと} 何^{なん}うは 故^こめふ事
 さうめし

車竹東 圖



いささせとさ
 西^{さい}ふとふし
 能^{たし}りゆれため
 何^{なん}う人^{ひと}ニ千
 人^{ひと}のかこふより
 大^{だい}ふ入^いざう
 ぬ

釣勢楼（りせうろう）
車

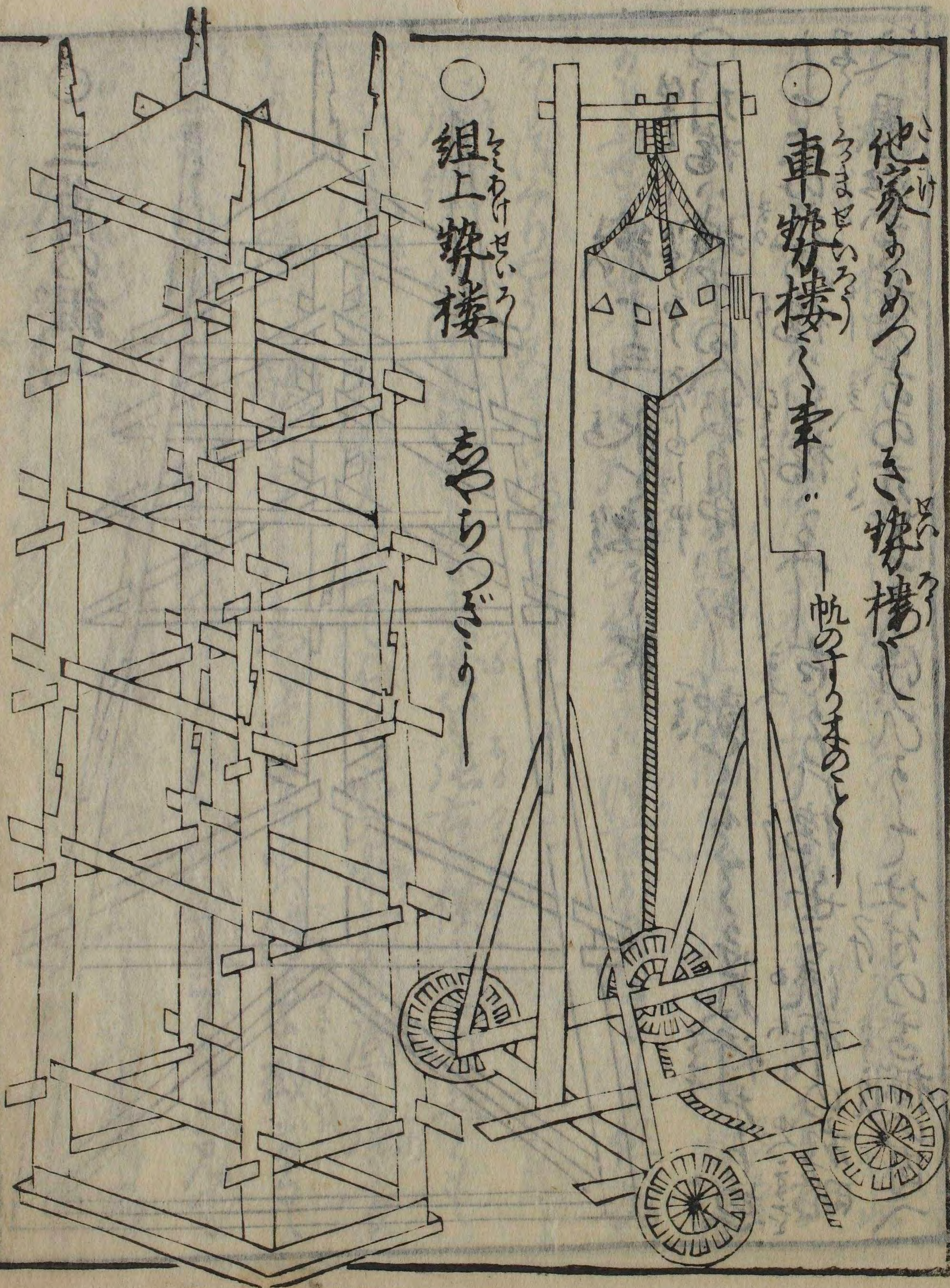


右是と物見勢楼（ものみせうろう）より遠山（とんざん）本勘（ほんかん）外（がい）他（た）紫（むらさ）雞（けい）
と申（まを）唐人（たうじん）信玄（しんげん）よりとも同（どう）みと云（い）物（もの）をを（を）上（う）へて（て）ひ（ひ）め（め）
み（み）十（じゅう）町（ちやう）の中（なか）の（の）み（み）め（め）お（お）な（な）め（め）と（と）み（み）め（め）の（の）ま（ま）め（め）の（の）て（て）め（め）
乃（な）も（も）勢（せい）楼（ろう）の中（なか）の（の）み（み）め（め）の（の）と（と）み（み）を（を）見（み）る（る）と（と）て（て）ま（ま）後（ご）
は（は）せい（せい）め（め）の中（なか）の（の）み（み）め（め）の（の）て（て）鉄（てつ）炮（ぱう）を（を）と（と）て（て）ま（ま）め（め）の（の）と（と）

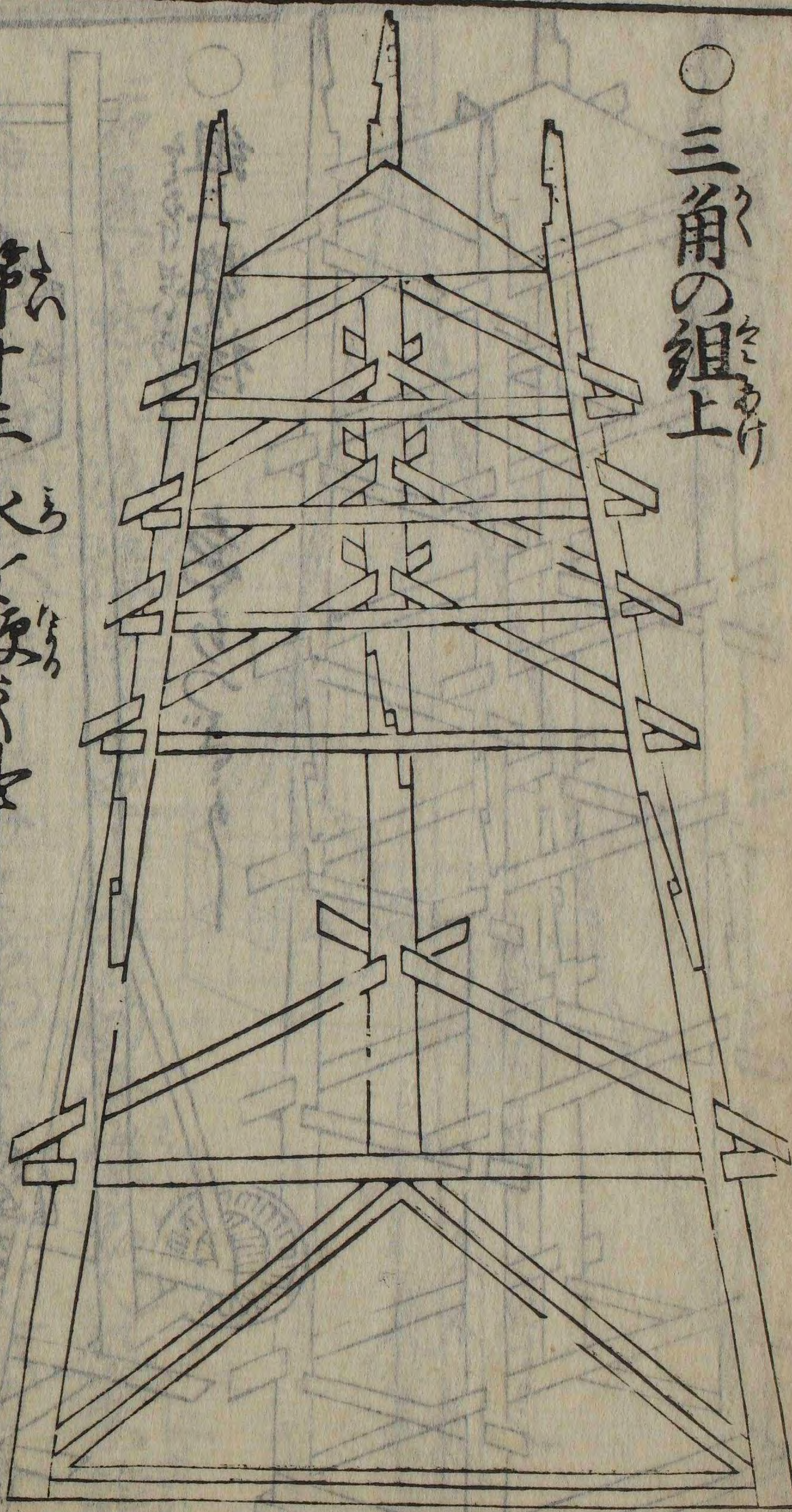
他家（いけ）あ（あ）め（め）つ（つ）と（と）勢（せい）楼（ろう）
車（くるま）勢（せい）楼（ろう）
帆（ふ）の（の）す（す）ま（ま）の（の）い（い）へ（い）

組上（くみあ）勢（せい）楼（ろう）

あ（あ）ら（ら）い（い）な（な）



○三角の組上



第十三 水を使ふ事

○「橋」は城中の久敷自中、水、敵とちうさるゝ行なり也。
 して二の丸の橋は「橋」なる、古より此橋は流布の於略
 之思案は橋のあの方とて、水はひうて仕付の「橋」の肉へ

引橋の「橋」の入りやふ作橋板せむりく、又「橋」を切此
 而と二重板やくと、おけ、方、上、方、板と「橋」のなかり
 あり、是場の棚やて、飛、足、具の働、下、は「橋」を「橋」
 も、さき、や、用也、「橋」の付、や、は、生、古、より、ぬ、と、但、あ
 り、は、なり、や、う、ぬ、は、橋、わり

○底綱を川原に付せむ、小綱と張、古、横、より、と、も
 流、は、あ、り、ひ、す、ら、て、あ、る、水、の、せ、り、底、は、張、る
 あり、「橋」○敵、は、あ、る、と、あ、る、せ、る、や、は、橋、を、或、ま、う、て
 蓋、の、板、と、わ、り、あ、り、と、付、は、入、る、方、と、く、お、見、守
 ば、あ、る、と、つ、ま、い、あ、る、は、川、上、ひ、と、ま、り、あ、る、と、あ
 あり、橋、の、な、り、と、い、ふ、は、責、で

○川とせうふ古い土儀ざりてせうふたがうしうふいあ。
ていせういあうく一板を代る舟のうく一板とてうくそ
ふ定て用ひの貴びとてわてし中よ石土儀とつてせうて

第十四 山と便と事

○さうすりとて六板大石本わくと車よ狭ひ八板と九
板とて八板と切あておろし屏のうけ目あ

○かりぬきとて板中をかりぬきとて七尺斗ちう板子
り年一底お乱板と打上るあきとてうけて垂て穴と

川の浅水とてかりぬきとてうけて垂て垂とわり

○乱板とて事あり乱略と

○約とてとて山とて一尺ちうれ穴とて米とてわり

垂るわりとて足とためあてとためて

第十五 約屏と事

一約屏のうけの方ふ本とていあてりて付原とてうめあてり
ふひとつとて山城とてり将共若平城とてり

第十六 楯と事

一楯板の長さ大方六尺八寸その古方也とてなるは将系

六尺八寸とてすうとて二尺八寸とての教めお釘とて古
方を代へ釘とてくうは琵琶板の長さ三尺とて守り形

八寸とて年とて代へ琵琶板の下とて文字のうんとてい
楯板の厚さ八分とて代へ鉄炮とてゆふ矢じけの方とて

くもとて名釘のうくとてとてとてとて山とて勘めたりとて

板 指

右木の柳松をとり

第十七

狼烟はく事

一のりあとのほ多とをたしけ方ハ楠正成紐すうのは也

狼糞 三分一 松葉 四分一 藁大

右をとりしより三束をんを三分一狼糞をとりし

松をとりしより三束をんをとりし中ハ鉄炮の葉をとりし入

るもの狼烟をく事也

第十八 狼烟見極る事

一狼煙ハ風ぬわつた時ハをとりし煙見しより三束をん

をとりし煙見しより三束をんをとりし中ハ鉄炮の葉をとりし入

るもの狼煙をく事也

と付く事也

第十九 板指なる事

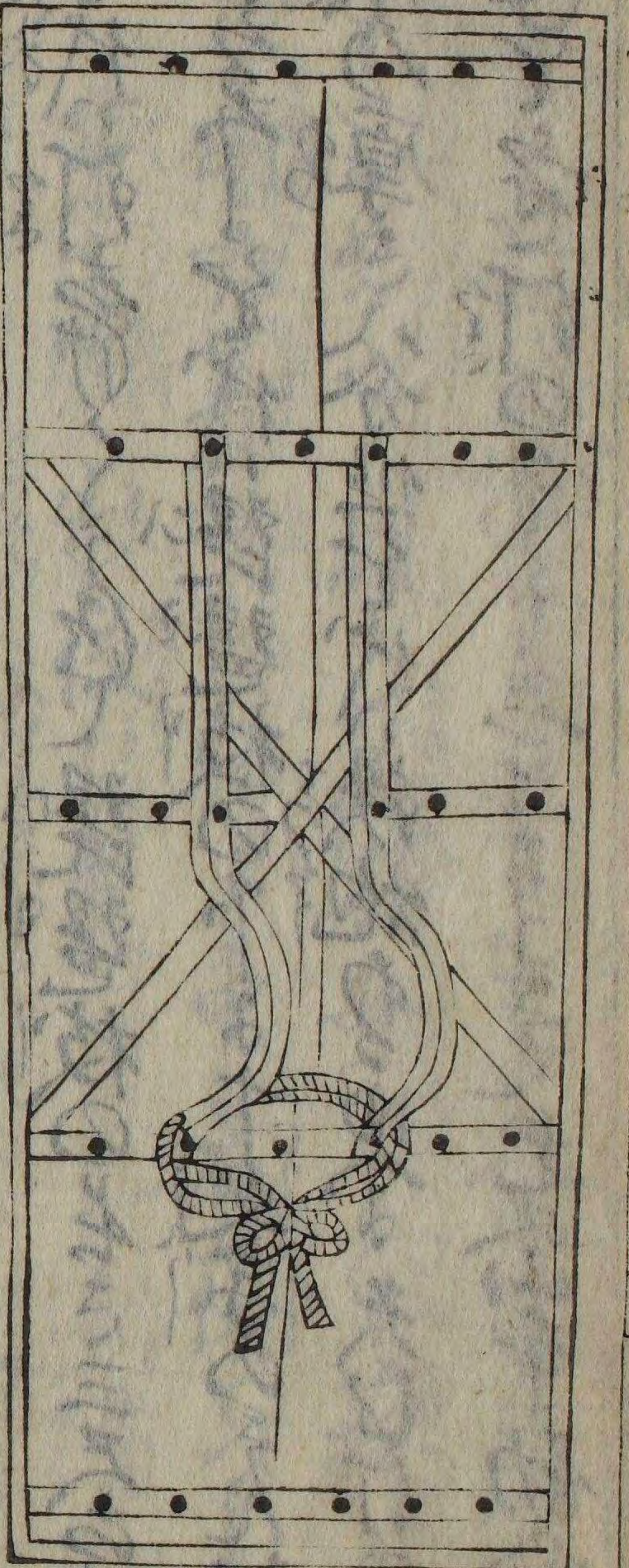
一板指ハわたりし返はゆりてより通ハ仕安物也りのなる

立ゆりしむけり也をとりし板指なる事也

同者なりしより三束をんをとりし中ハ鉄炮の葉をとりし入

るもの狼煙をく事也

第二十 一のりあとのほ多とをたしけ方ハ楠正成紐すうのは也



是ハ 長指 とも

大風や大ぬのう時とこそしむびわうら衆をよとふれ
面風もあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
つらと恥とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
津よりあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
あひひのう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
りんごの羽衣のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
りんごの羽衣のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
あひひのう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
陣へあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
あひひの城とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
あひひの城とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
あひひの城とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ

わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ
わうら衆のう時とあきりわう衆をよとふれわうら衆をよとふれ

初を神すこの横にゆるる神にあらうとて
 いさめあひまむひつくるまは事れあへやと地
 あひ掩くふきを物あるは仕食のた瑞おとし
 あひ虫星なれ方にゆめじ曇る松あり雲ひろむ
 つらもの泣ひるこそ古事昭々されは光とやけりぬ
 月の影白もそ同ふた称園にあたりあふ抱きよ
 日月あむひ一嘆けのおろろ夜よりけそあらは
 霞なりあひふゆき事ゆく先足ゆとの羽をせよ
 月つけのみあひまゆ時花並とてよわりの若乃ため
 武士を何やそあそびる年一まゝさびのあひさ
 武士のあか物いふともえあけし柳あまのさくら那

[illegible]

ふゆりのとて内江^{うちえ}を大車^{おほくるま}おこしゆり付^つきつたりま
 かり付^つきぬくも移^{うつ}回^{まわ}てて歌^{うた}のあひびと見^み付^つくとき
 歌^{うた}方のまろいあきまきあきあきうりて用^{もち}えすると都^{みやこ}
 森林^{しんりん}神^{かみ}よりきりてつりあふ歌^{うた}のあきと用^{もち}えと勢^{いきり}よ
 ふゆりのゆけあ木^き臺^{たい}や歌^{うた}のきまれと大車^{おほくるま}とゆ^ゆめと
 移^{うつ}回^{まわ}てふあんのあきと見^み付^つきつたりまきりて生^{なま}捕^{とら}ませ
 移^{うつ}回^{まわ}てうり捨^{すて}するは木^きがこもまりてみるうりす那
 かき歌^{うた}のあひとあきと木^きがこもまりてみるうりす那
 木^きがこもまりて木^きとこの木^きがこもまりてみるうりす那
 移^{うつ}回^{まわ}てふあんのあきと見^み付^つきつたりまきりて生^{なま}捕^{とら}ませ
 移^{うつ}回^{まわ}てうり捨^{すて}するは木^きがこもまりてみるうりす那
 かき歌^{うた}のあひとあきと木^きがこもまりてみるうりす那
 木^きがこもまりて木^きとこの木^きがこもまりてみるうりす那

歌中ふあふをてある時火乃立屋うふ大勢てわき
 四季の火をてあふひのたのわきをてあてまふ危うき
 歌乃城歌の陣あふ火をてあふ味方に時の物事をせよ
 城や陣あふ火をてあふ味方をてあふ時とまふ
 城や陣あふ火をてあふ味方をてあふ時とまふ
 歌城のあふあふとてあふまふあふ物事をせよ
 歌方の旗あふあふとてあふ味方のあふあふとてあふ
 火をてあふ味方をてあふあふ味方をてあふ
 歌方の城や陣あふあふとてあふあふ柄とあふあふせよ
 歌あふあふあふあふとてあふあふ味方をてあふ
 歌あふあふあふあふとてあふあふ味方をてあふ
 歌あふあふあふあふとてあふあふ味方をてあふ
 歌あふあふあふあふとてあふあふ味方をてあふ



The « Gunpô Jiyôshû » is a japanese collection from 1664, gathering various warrior traditions of the time, in 12 books.

You will find here all of the complete 12 books.

Here is the 12 books index :

Book 1 : Questions and answers about bravery.

Book 2 : About preparation to battles. (First part)

Book 3 : About preparation to battles. (Second part)

Book 4 : About preparation to battles. (Third part)

Book 5 : About the weapons and the tools.

Book 6 : About shinobi / ninja. (First part)

Book 7 : About shinobi / ninja. (Second part)

Book 8 : About shinobi / ninja. (Third part)

Book 9 : About lucky and unlucky day, time and direction. (First part)

Book 10 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Second part)

Book 11 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Third part)

Book 12 : About *ki* (*chi* or *qi*).

For information, these 12 books of the « Gunpô Jiyôshû » have been fully published and translated in modern japanese in a single book, during the year 2001, by the japanese publisher Perikansha :

<https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X>

Auteur : Ogasawara Sakuun (小笠原 昨雲)
Titre en langue originale : « 軍法 侍用集 »
Titre en japonais : « Gunpô Jiyôshû »
Titre en français : « Recueil des techniques guerrières des samouraïs »
Titre en anglais : « The collected way of the samurai military arts »
Année : 1664

Le « Gunpô Jiyôshû » est un recueil japonais datant de 1664, compilant diverses traditions guerrières de l'époque en 12 cahiers.
Vous trouverez ici l'intégralité de ces 12 cahiers.

En voici le sommaire :

Cahier 1 : Dialogue sur la bravoure.

Cahier 2 : Sur la préparation aux batailles. (Première partie)

Cahier 3 : Sur la préparation aux batailles. (Deuxième partie)

Cahier 4 : Sur la préparation aux batailles. (Troisième partie)

Cahier 5 : Sur les armes et les outils.

Cahier 6 : Sur les ninja. (Première partie)

Cahier 7 : Sur les ninja. (Deuxième partie)

Cahier 8 : Sur les ninja. (Troisième partie)

Cahier 9 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Première partie)

Cahier 10 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Deuxième partie)

Cahier 11 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Troisième partie)

Cahier 12 : Sur les manifestations de l'énergie vitale (le *ki*, *qi* ou *chi*)

Pour mémoire, ces 12 cahiers du « Gunpô Jiyôshû » ont été intégralement retranscrits et publiés en japonais moderne en un seul livre, en 2001, par les éditions japonaises Perikansha :

<https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X>